

## オーストラリアからの留学生トーニャさんのメッセージ

今年の3月、私は幸運にも日本の10代の若者の生活を体験することができました。店で英語のメニューがあるかと聞いたり、着物を着て写真を撮ったりする普通の観光客とは違いました。本物の日本の高校に入れていただき、同じ制服を着て、同じ校則を守って過ごしました。いくつかの校則にはびっくりしましたが、たった1週間だったので、私はなんとか生き延びました(冗談です)。



めったにない機会として、私は日本の学校生活を中から洞察できました。参加させていただいた授業はどれも興味深かったです。学習スタイルと授業スタイルの違いにも気づきました。

また、私は学校に通わせていただいただけでなく、吹奏楽部と英語部の一員として活動させていただき、多くの行事に参加する機会を与えていただいたので、とても感謝しています。廊下では多くの人が私に挨拶し、とても歓迎されていると感じました。松陽生はとても親切でオープンだと思います。私はすでに心から恋しいと思える友人をたくさん作りました。

日本や松陽高校で驚いたこと：

まず、日本ではよくお辞儀をします。私はお辞儀に慣れていなかったのですが、スピーチや挨拶の中に何度もお辞儀をするように言われたとき、とても気まずく感じ、それ本当に必要なのかと疑問に思いました。お辞儀をまったくしないオーストラリアの文化とは大きく異なっていました！

第二に、小さなことでも何にでも謝り、お礼を言わなければならないことです。私の国では、人々はもっとリラックスしていて、他人の意見をそれほど気にしません。例えば、待ち合わせの時間の10分以上前に来る人はめったにいないし、教師が部屋に入ってきて生徒は立たないし、電車の中で話をしたり、SNSに自分の写真を顔を隠さずに投稿したりします。



第三に、学校の集まりや授業中、男子と女子は別々であることです。一緒につるむことはいらないようで、グループを作るように言われても、男女別のグループを好みます。私の学校では、男子も女子もみんな混合グループを好みます。お互いに親切なので、男子・女子に話しかけるのも怖くないし、男女のコミュニケーションが必要になっても緊張感がありません。ここでは、男の子が女の子に話しかけると、二人はつきあっているという噂が立ちます！面白かったです。ある女の子に「彼氏を作るにはどうしたらいいか」と聞かれました。私は彼女に、「たくさんの男の子と会話し、彼らがどんな人たちなのかを知り、冗談を言い合ったり、コミュニケーションをとるように」と言いました。彼女はとても恥ずかしがって、男の子と話すのは恥ずかしいからダメだと言いました。私は驚きました！

野球部の髪型や大きな声での挨拶にも驚きました。オーストラリアではスポーツクラブに統一して決まった髪型はないので、それぞれの好みで髪型を選びます。ここでは髪型を見れば誰が野球部員かすぐに分かるのが面白いです！



松陽の制服を着たことがとても印象的でした。自分の学校の制服のジャケットやズボンに家に忘れてきてしまったのですが、松陽生らしくありたいと思い、卒業生から制服を借りました。水戸芹菜さん、ありがとうございました！私とサイズが同じで、ちょうどよかったです！



松陽での生活の一環として、3A~D、2Aなどのクラスを訪問し、プレゼンテーションをしました。日本とオーストラリアの違いについて発表しましたが、生徒たちは楽しんでくれたのでしょうか。みんなの英語のスキルはとても印象的でした。たくさんの質問をありがとうございました！

特に、松陽の吹奏楽部と一緒に過ごせた時間は私の宝物です。メンバー一人一人が音楽に対する情熱に溢れていて、彼女たちと一緒に練習や演奏ができたことをとても光栄に感じました。私の日本語はとても拙かったのですが、音楽という言葉を通してみんなとコミュニケーションをとることができました。私たちが演奏した曲や、友達になったことで、私はサックスの練習にとっても刺激を受けました。松陽吹奏楽部で過ごした時間に、私は永遠に感謝します。

忘れられない時間をありがとうございました。オーストラリアから松陽にエールを送ります！

心から トーニャ・ミハイロヴァ